

佳作

手紙の温かみ

高知県 南国市立久礼田小学校五年 杉山 大起

「こんにちは、六月十八日の声ひろばを読ませていただき、突然のお手紙を差し上げ、ごめんなさいね。大起君のお父さんは、大変立派なお父さんです。」

これは、僕が四年生の時にもらった手紙です。新聞の『声ひろば』に初めてのった『僕のお父さん』という作文を読んでもらった七十八才のおばあさんが、手紙を書いて学校に送ってくれました。担任の先生から手紙をもらった時、知らない人からの手紙だったので、「何だろう」と思いながら、帰ってすぐに読みました。

手紙には、僕が作文に書いた「仕事に行く前に毎朝新聞を読んで、僕に新聞にのっている世界の事を話してくれたり、夕方、野球の練習を一緒にしてくれるお父さん」についての感想などを書いてくれて

いました。手紙を読んでいると、このおばあさんの優しさや心の温かさが伝わってきました。手紙が急に届いた事には少しびっくりしたけど、温かい手紙がもらえたのがうれしくて、感動しました。

おばあさんも朝早くから新聞を真っ先に読んでいるそうです。手紙には、「新聞の力はすごいですね。テレビとちがって、何回も読めるから大好きです」とも書かれていました。それに、僕の通っている久礼田小学校が、『声ひろば』にたくさん投稿している事も知っていて、びっくりしました。いつも僕達の作品を気にかけてくれてるんだなと思いました。知らない人の作品でもしっかり読んでくれて、さらに丁寧な手紙まで送ってくれた事で、僕も頑張ろうという気持ちになりました。

手紙をもらった次の日、担任の先生や校長先生に話すと、

「良い手紙をもらって良かったですね。」

と言ってくれました。とてもうれしかったです。

それから、両親と話合って、そのおばあさんに返事を書く事にしました。手紙をもらってうれしかった事や、お礼などを書きました。

何日かすると、おばあさんは、僕が書いた手紙の

返事をくれました。その返事からは、僕達が頑張る事で、いろいろな人が喜んでくれてる事が分かりました。

僕の作った俳句が新聞の『読もっか』にのった時には、近所のおばさんが手紙を送ってくれたので、学校に行く途中に大きな声でお礼を言いました。僕が記事を書いて出すと、いろいろな人とながれるので良いなと思いました。だから、これからも、学校の事や野球で頑張った事など、いろんな事を投稿して、皆に読んでもらいたいです。

今、僕の家の玄関には、おばあさんが手紙と一緒に送ってくれた飛び出す金魚のかざりを置いています。この事をいつまでも忘れないようにしたいです。